

第39回「金型の日」を迎えるにあたって

社団法人日本金型工業会は今回で第39回目の「金型の日」を東京にて迎えることが出来ました。これもひとえに会員企業、関連業界の皆様の御支援と御協力の賜であると深謝申し上げます。

平成24年は、前年の東日本の大震災、台風15号、タイの大洪水の影響から脱して当初回復基調となりましたが、4月以降中だるみ状態となっていました。現在、領土問題より反日運動・不買運動が発生し、景気に影響されるか懸念されます。それ以上に影響を受けているのが円高です。2007年から始まる異常な円高は、近隣発展国に対しても25%以上高くなるという状態で、製造業の海外移転を促進し、日本のものづくりを直撃しておりますし、雇用問題を発生し、個人所得を低迷させています。

まだ日本の製造業は完敗したわけではありませんから、このまま無為無策のままに国力を衰退させず、強い政治のリーダーシップで、困難に立ち向かう実効のある政策を強力に推進してもらいたいのは国民の願いでもあるはずですが、政局は混迷を続けています。

我々金型産業は生き延びる為、地球が市場であるという考え方で日本の底力を結集して、ビジネスチャンスの拡大を目指すべきであると思います。差別化技術や特殊技術に英知を集結して世界の潮流にどううまく対応していくかを業界の皆様とも考えて実行しましょう。

今こそ社団法人日本金型工業会はその媒介的な使命を果たすべき政官民と一体になって頑張っていく所存であります。会員企業、関連業界の皆様の更なる御支援、御協力をお願い申し上げます。

平成24年11月6日
社団法人日本金型工業会
会長 牧野 俊清